

Comparing Cultures and Language Exchange with students in Malawi

呉武田学園 武田中学高等学校 担当教科：英語 サウザー・アシュリ

●実践教科：英語総合、OC ●時間数：8時間・1時間 ●対象学年：中2、3・高1 ●対象人数：60人・180人

実践の目的

- ・文化の違いはプラスのように考えるように。
- ・多文化交流で、お互いのベネフィットあることを学ぶ。
- ・英語を使って、実践的な交流をして、大きな世界と繋がっている事を実感する。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
4 H	違う文化とは？ ・自分の普段生活と自分の文化はどのように繋がっているのか ・英単語similarとdifferent（中2、中3）	・自分の普段の生活について、英語の質問は英語で答える（学校、好きな食べ物、家族、宗教、などについて） ・アメリカ・コートジブワール・パレスチナの中学生のアンケートの結果を見て考える	・アンケート ・アメリカ・コートジブワール・パレスチナの中学生のアンケート
2 H	英語で、世界の中学生に！ 英語を使って、実践的にマラウイの中学生たちとcommunicationを取る（中2）	・英語で手紙を書く ・手紙をマラウイの中学生に渡して、返事を書いて貰う ・マラウイからの手紙を読む	・私たちからの手紙 ・マラウイからの手紙
2 H	スピーキング・テスト マラウイからの手紙の感想（中2）	自分たちの生活とマラウイの生活の似ている所、違う所を英語で表現する	・マラウイからの手紙
5 H	アフリカ・ウィーク（全生徒・教員）	海外研修の写真を見せ、話を聞かせて、最後はディスカッション	・パワーポイント

違う文化とは？

文化というのは具体的に「何？」と聞かれたら、よく分からない。

生まれてから、自分の社会、自分のCommunityに住むので、そのルール、伝統、服装、食習慣は全部「当たり前」として受け入れて、あまり意識はしない。ただ、違う所に行くと、全部が違う。「我々はふつう、向こうが変わっている」というのは一般的なリアクションだ。だから、よその文化を理解するためには、自分の文化は最初理解しなければならない。自分達の文化で、やっていること、あること全てに実は、意味やストーリーがある。

昔の日本人も厳しい環境の中でがんばって来た。それを全て理解できたら、外国の文化も同様にそのルールやストーリーを理解することができる。そういうことを生徒達に知らせるため、最初に英語でアンケート実施した。英語の勉強では、普段自分の文化の意識しない所を気付かせることができる。それができたら、今度は違う文化に住む同い年の生徒がアンケートを見せる。こ

れによって、文化の違いだけでなく、貧困のことも勉強になる。例えば、Food Securityという単語を紹介する「食の安全」。コートジブワールのフローラさんの家で、収穫が悪ければ食べ物が足りなくなるので、彼女は学校をやめて、仕事しなければならない。それは食の安全がないから。これはそのアンケートの一つ：

Flora-Ivory Coast



1. What is your favorite food?

My favorite food is Aloko. It is Fried bananas with onions, chilies, and fish.

2. What language(s) can you speak?

I can speak three languages: French, Swahili and my tribe's language, Dyula.

3. How is your school life?

Everyday I walk one hour to school early in the morning. On the way I pick up sticks to bring to school. All the children bring sticks to make a fire to cook our school lunch.

4. Do you have any big festivals in your culture?

Every year in my village we have a festival. The men wear beautiful wooden masks and do special dances. The masks have spirits in them. Also, in our spring festival FeteDipri, everyone runs naked out of their houses. This is to purify the village. It is fun.

5. How many people are in your family?

I have a big family. My father, mother, 3 sisters and 3 brothers, and grandfather and grandmother all live together.

6. What are your hopes and dreams?

I hope that we can have a good harvest. Then I can keep going to school and someday, become a photographer. I want to take pictures of my beautiful country to show the world!

英語で、世界の中学生に！

海外研修に行く前に、生徒達がアフリカの同い年に英語で手紙を書かせた。自分の文化を紹介して、相手の文化や相手の生活について聞く。絵も写真も入れて、皆一人一人が自分らしい雰囲気の手紙を書いてほしかった。

帰ってきたら、マラウイの子供たちの手紙を読ませた。みんな違う手紙を貰うので、中身をクラスで紹介して貰った。そしてディスカッションした。

似ている所は？違う所は？びっくりしたことは？読んでどう感じた？気付く所がいっぱいありました。

びっくりしたこと！

- ・ マラウイの子供たちの手紙でよく「I love you!」を書いてあった。
→彼らの文化で感情が日本よりも自由なのかな？と考えることもできた。
- ・ 動物の絵がいっぱい書いてあった。
→彼らが農家だからかな？
- ・ 私たちは一週間をかけて手紙を書いたけど、彼らはすぐその場で書いた。
→英語がすぐかけたのは、昔英国に植民地とは関係があるかな？

生徒が気づいたことに、さらになぜ？と問いかけることで、マラウイの文化の意味やストーリーを少し理解できたようだ。

〈所 感〉

最初は英語で手紙を書くといわれ、生徒が書いたが、「自分のレベルでいい、自分の気持ちを伝えるならいい」と言ったら、がんばって書いてくれた。アフリカから帰って、手紙を渡した様子を伝えると、「自分の英語が通じた、向こうの生徒も書いてくれた」と分かり、非常にうれしかったようだ。

スピーキング・テスト

スピーキング・テストでは生徒達が以下の質問に英語で答えた。

- ① Who wrote the letter to you?
- ② Was there anything that surprised you in the letter?
- ③ Were there any pictures in the letter? Of what?
- ④ What was similar about their life and your life?
- ⑤ What was different about their life and your life?
- ⑥ How did you feel when you read the letter?

〈生徒の反応〉

普段、生徒はスピーキング・テストはあんまり好きじゃないが、「手紙を読んでどう感じた？」と聞いたら、積極的に発言していた。

アフリカ・ウィークのパワーポイント発表

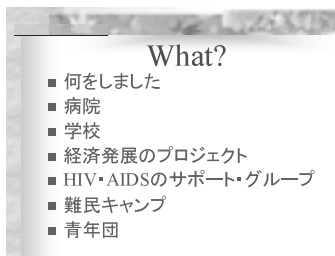


一週間連続で実施しました。毎日の昼休憩を利用して、視聴覚室でパワーポイントを見せました。短い時間でしたが、多くの中学生、高校生や興味を持っている教員の方が見ていました。

このパワーポイントは授業にも使いました。

内容は、最初「5W1H」の英単語、(When, What, Where, Who, Why, & How) で海外研修を紹介しました。

①What? 何をしました？



②Where? どこに行きました？



③Who? 誰と行きました？

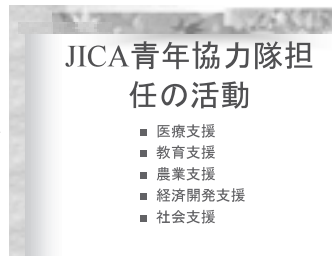


④Why? 何で行きました？

「一人は一人を教える。
その人は、次の人を教える」
英語では、"Each One Teach One"



⑤How? どうやって？
「協力隊の活動の紹介」



「これがない、あれがない！」

アフリカの暮らしを見ると、私達が普通にこういうビックリ・リアクションはあるでしょう。



生徒たちに色々な写真を見せて、「何がない？」と聞く。
例えば、ここのサッカー少年の写真を見ると、「靴がない！」って生徒が答える。



この教室は？机がない！ That's Right!

…このような、写真を見せて、マラウイ人の「ない」ものをビックリさせる。
でも次はマラウイの「ある」ものを紹介します。いっぱいあるよ！

例えば…

自然！すばらしい環境と天気、暮らしやすい！

バオバブの木は魔法のような巨大な木！！



マラウイでは沢山の「もの」はない。その代わりに、人、自分の人間関係、家族、友達をもっと大切にしています。コンビニや自販機はあんまり見なかったけど、笑顔がいっぱい見ました。最初は「ない」ものが目立ったけど、どんどん『なくてもいいかな』と思いました。後はマラウイの「あるもの」に感動した。特にあそこで見た『信仰』や『希望』がすばらしいと思いました。日本と違って、こちらはあるものはないけど、同様に、こちらはないものはマラウイではある。お互い、ないものを持っているだから、交流したら互惠関係ができます。

そして、人と人の結びつき！ 英語で交流して、共通点が現れる 言葉が通じない時はスポーツ！



このように、色々な写真を見せて、マラウイの良い、面白い所を知らせる。日本人の青年海外協力隊がたくさんの大切な支援をマラウイ人にあげています。けれど、同時に我々はマラウイからは学べるもの、貰えるものはいっぱいあります。お互いが必要です。

〈生徒の反応〉

このパワーポイントの発表に対しての生徒の感想は非常に良かった。

絵がたくさんあって、面白い所も受けとってくれました。最後のディスカッションの時、生徒たちがいつもの授業より深く考えていたという雰囲気でした。いつもより質問が出ました。

「アフリカから先進国に帰って、どう思いましたか？」という質問。特にその手紙交流した中2の生徒たちからは、手紙を書いてくれたマラウイ人の顔がみえて、さらに「世界が小さく感じた」という声をいただきました。

Zikomo Kwambi!

Thank you very much!